

## 1、幼稚園の教育目標

緑深い木々と、広い運動場、整った設備の中でいきいきとした心身の健康と体力増進を中心とし、ひとりひとりの個性を大切に、諸能力を十分に発達させ、情操を豊かにし、人間形成の基礎を確立することを目標とする。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

幼児教育要領の内容の理解を深め、職員一人ひとりが丁寧に子どもと向き合い、各年齢に応じたカリキュラム作りをし、子ども達がのびのびと活動できる保育内容に取り組むとともに、運動場でのびのびと遊びや活動がおこなえるようにする。

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育課程の編成・実施や目標に基づいての計画性や保育教育のあり方	B	幼児教育要領の内容の十分な理解をするとともにそれに合わせた指導計画のねらい、各学年ごとの教育保育内容に適した取り組みができるように各年齢ごとに作成し、それに応じた理解が深められるように取り組んでいる。また、年長児は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にむけた具体的な保育内容が今後も課題である。
具体的な保育の在り方、幼児への対応や保育内容の職員の共通理解	B	子どもの健康や安全面に留意しながら、のびのびと活動や遊びを行ううえで、具体的な指導内容を教職員間の共通理解のもとでできるようなカリキュラムづくりをするようにし、一人一人の職員が活発な意見交換ができるように一層工夫することが大切である。また、運動的な保育内容や遊びを充実できるように、様々な取り組みをするうえで今後は更の一つ一つの細かな具体的内容にもとづいたカリキュラム作成に取り組むことが大切である。職員の共通理解と子どもたちにも伝わりやすくすることを目標とし取り組むようにする。
教師としての資質や能力 教職員間の相互理解	A	各自の日々の保育での疑問点などを尋ねやすい環境にできるよう、又、経験年数の違いをフォローできるように会議の持ち方などを工夫しているが、今後は更に各々の職員がより多くの意見交換ができる場面が持てるようにしていきたい。
保護者への対応	A	日常の中で、些細な子どもの様子であっても保護者に伝えるようにし、日頃から保護者とのコミュニケーションをとるように心がけるようにしている。また、内容によっては学園で協議し職員間でも共通理解がとれるように伝達をすることができるように引き続き行う。
研修の取り組みについて	B	研修には積極的に参加することで、保育の向上や自分自身の保育の問題解決につなげられるようになってきた。また園内研修では職員同士で内容を共有することで日々の保育に生かせることができるように取り組んでいる。今後も更にさまざまな研修の取り組みを継続して行えるようにすることが大切である。

安全面に配慮した環境づくりと地域の自然や社会との関わりや取り組み	A	安全面への配慮した取り組みや環境構成を整えること、また日々の安全点検の確認・励行を継続し行うようにしている。防犯や防災、火災などにおいては新たに防災頭巾を着用し、災害に備えての訓練を実施すると共に職員にも基本的な対応マニュアルの周知を徹底するよう取り組んでいる。地域の自然や社会との関わりについては、地域環境の理解が職員間で違いがあるのもう少し地域の理解や環境を共通理解で知ることができるようにしたい。また、小学校との交流会での連携は毎年実施し取り組んでいる。内容も充実し取り組んでいる。
----------------------------------	---	--

◎評価結果の表示方法

- A 十分達成されている    B 達成されている    C 取り組まれているが、成果が十分でない  
D 取り組みが不十分である

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理 由
B	全体的にはおおむね取り組むことができている。新教育要領に伴う教育課程の編成、実施も保育の中で実際に取り組みが進められているので、今後は更により深い理解と展開が大事であるとともに、より子ども達が楽しめる具体的な遊びや環境構成の工夫をした取り組みができるようにしていきたいと考える。又、子ども達の心身の発達、運動遊びの充実は様々な運動遊具を取り揃えたり、具体的なカリキュラム作成を行うなどして今年度も取り組んでいるが、引き続き継続して取り組むことで更に、具体的な活動や遊びの展開ができるようにすすめていきたい。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 組 方 法
教職員の資質向上	教職員一人一人が幼稚園教育要領の理解をしっかりと深め、日々の伝達や、会議の場面で各々が自身の意見をしっかりと伝えられるように取り組むことと、各自がより保育に自信が持てるように様々な研修に参加することや園内研修の取り組みを引き続き行うことで、自身の質の向上を目指すように取り組みたい。
運動遊びの日常の中での具体的な取り組み	各年齢に応じた日常の中での運動遊びを、具体化している内容を広げ深めることで、日々の保育でより多くの運動的な活動や様々な遊びができるように取り組むようにする。
環境構成の取り組み	様々な場面で子どもたちの意見を取り入れながら保育はしているが、更に子どもの発想を柔軟に取り入れ考えることができるようにし、それを生かしたより柔軟な環境構成の取り組みが行えるようにしていくことが課題である。
地域社会との取り組み	地域社会の環境や主な施設の場所、交通機関などについて認識の違いがあるので、教職員間で伝達しあうなど共通理解が深められるようにする。

6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められている。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

